

群馬県文化審議会「群馬県民会館のあり方検討部会」報告資料

1 設置目的

- 群馬県民会館の建設当初と比べての優位性や拠点性を含め、将来的な同館の役割や将来像について検討する。
- ソフト面（将来像）とハード面（維持・改修の必要性）の両面について、平成27年度～平成28年度の2か年度にわたり検討し、知事に答申する。

2 構成

(1) 部会委員・・・文化審議会委員から6名を指名

分野	氏名	性別	職種	
1	熊倉 浩靖	男	・群馬県立女子大学群馬学センター副センター長・教授	
2	友岡 邦之	男	・高崎経済大学地域政策学部 教授	
3	小林 聡	男	・上毛新聞社 文化生活部長	
4	文化活動実践	志尾 睦子	女	・シネマテークたかさき代表
5	文化活動支援	近藤 圭子	女	・きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表
6	公募	藤橋 誠	男	・公募委員

(2) 特別委員・・・学識経験者、施設利用者、周辺団体等

分野	氏名	性別	職種	
1	草加 叔也	男	・(有)空間創造研究所代表 ※平成22年度 指定管理者選定委員会委員	
2	西巻 忠彦	男	・西巻公認会計士事務所 ※平成27年度 指定管理者選定委員会委員長	
3	中村 紀雄	男	・前県議会議員	
4	中村 ひろみ	女	・群馬県立県民健康科学大学舞台芸術非常勤講師 ・(有)サンファクトリー代表取締役	
5	文化団体	樽井 哲	男	・前群馬県文化協会連合会会長
6	堤 志行	男	・高崎マーチングフェスティバル協会顧問、前理事長 ・群馬交響楽団評議員	
7	施設利用者	稲毛 信哉	男	・群馬県立前橋商業高校 音楽教諭 ・群馬県吹奏楽連盟事務局長
8	代表	渡邊 由美子	女	・社会福祉法人上毛愛隣社 前橋保育園園長
9	飛田野 千昭	女	・群馬県洋舞連盟会長	
10	公募	須藤 恵子	女	・ペンション カレンズ(片品村) 経営
11	施設運営者	奈良 三郎	男	・群馬県教育文化事業団代表理事

3 開催状況

第1回部会	【開催】平成27年10月16日 【出席数】部会委員6人、特別委員10人 【議題】○部会長選出 ○県民会館のあゆみ ○県内文化ホールとの比較 ○県民会館の特色、指定管理運営状況
第2回部会	【開催】平成27年11月26日 【出席数】部会委員5人、特別委員10人 【議題】テーマ1「音楽関係」意見交換
第3回部会	【開催】平成28年1月28日 【出席数】部会委員4人、特別委員10人 【議題】テーマ2「演劇・バレエ関係」意見交換
第4回部会	【開催】平成28年2月18日(予定) 【議題】テーマ3「ホール関係」意見交換
第5回部会	【開催】平成28年3月18日(予定) 【議題】平成27年度の総括

4 議事概要

(1) 第1回部会

県民会館のあゆみ、特色、現状、県内外文化ホールとの比較等について事務局から説明後、今後、丁寧に議論したい課題や期待する役割等について、各委員から意見が出された。

<主な意見>

- ・ 駐車場不足は問題である。解決に何かアイデアはないか。
- ・ 建物自体がステータスであり、県民の創造の場であってほしい。
- ・ 新しい社会情勢下、県内近隣の関連文化施設との役割分担を意識。
- ・ 「公の機関」(institute)としての基本方針の確立が大事。
- ・ 良質の聴衆や文化を育てるという大きな目標を達成するためにも、県民会館の存続は必要。
- ・ 良質な音楽を提供するには、観客に相応の料金負担を求めるべき。

(2) 第2回部会

「音楽関係」をテーマに取り上げて、県民会館との関わりについて意見交換した。

<主な意見>

- ・ 群馬ならではの何かを発見し、創造する場としての役割に期待。
- ・ 駐車場は、はじめから「ない」と言えば問題とならないことがある。
- ・ 子どもが本物の音楽に触れられる機会を提供することは、人材育成にもつながる。
- ・ 演奏者・指導者の育成にも力を入れていく必要がある。
- ・ 初心者にとっては「あこがれの場(ホール)」である。
- ・ 残響時間が短いのは否めない。
- ・ すばらしいスタッフ対応や運営ノウハウを、他のホールに伝えていくことも重要な役割。
- ・ 地元の人が何かを共有できるような場であってほしい。

(3) 第3回部会

「演劇・バレエ関係」をテーマに取り上げて、県民会館との関わりについて意見交換した。

<主な意見>

- ・ 県と前橋市の文化行政の役割分担が大事。
- ・ アマチュア劇団の数は多く、高校・中学校演劇のレベルも高い。
- ・ 演技演奏者・指導者の育成の場としての県民会館に期待。
- ・ 行政は、文化が先細りにある現状をもっと問題視するべき。
- ・ 異分野の文化団体が交流できる機会を、県民会館が提供してほしい。
- ・ 立地に恵まれアクセスが良い。周辺の活性化に貢献できる可能性あり。
- ・ 子どもや高齢者、身体障害者の利便性向上には改善の余地あり。
- ・ 設立当時は「特別な」会館だった。今後も「県民のための」会館に。
- ・ 大小ホールを備えているのは機能的に大きな利点。
- ・ 演劇、歌舞伎、バレエは伝統や本質(ハードコア)に重点を置く文化活動であり、ハードコアの部分を育てていくことが非常に重要。
- ・ 前橋はハードコアなものを受け入れる地域性があり、この地の利を生かしていくべき。
- ・ 文化の拠点、地域活性化の基盤として誕生した設立当時の背景を、行政はもう一度捉え直し、役割を果たしていく必要がある。
- ・ 今後果たすべき「役割」を固めれば、県民会館をどう使っていけばよいか、何が必要なのかが自ずと決まってくる。